

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	01911500099		
法人名	社会福祉法人 きずな会		
事業所名	グループホーム きずなⅡ ユニット1		
所在地	二海郡八雲町立岩55番地36		
自己評価作成日	平成26年7月28日	評価結果市町村受理日	平成26年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が地域との交流や繋がりを持って、楽しみや生きがいを持てるような環境が作りに努めています。具体的には、外出しての食事や地域の馴染みの店に食事を発注する等、より生活を楽しんで頂けるような企画を立案し実施している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0191500099-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成26年9月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームきずなⅡは、国道277号線に面した木造平屋建てで玄関前には木製の小さな荷車のコンテナに季節の花が植えてある。事業所内は建物の中心に事務所があり、左右にユニットが分かれており玄関を入りする利用者や来訪者に目が行き届く造りになっている。棟続きでショートステイが併設され、事業所から続く廊下は地域の方の協力を得て絵画や絵手紙・写真などの作品を四季毎に替えて展示し、画廊として開放している。また、同じ敷地内には高齢者住居と障害者住居が一緒になった2階建ての共生型支援ハウスも建てられ、避難訓練や各種行事も3事業所合同で実施している。日常的な交流も盛んに行われ、しっかりと協力体制が築かれている。春のお花見にはお弁当を持って出かけたり、ボランティアの出張寿司屋やそば屋の訪問があったり、馴染みの食堂から出前を取るなど利用者の楽しみの機会を多く確保している。当事業所は地域との結びつきが強く避難訓練時には20名ほどの住民が参加したり、各種行事には屋台を担当するなど良好な関係を築いている。年4回音楽療法を取り入れており、利用者は機嫌の良い歌が歌える日を楽しみし、日常生活の動作や言語の回復など徐々に効果が表れている。災害時や火災発生時の避難方法(担架・手ひきなど)を各居室のネームプレートに記載し、避難をすると裏にし誰にでも避難済みであることが分かるように工夫している。ケアサービスの面では個別対応が重要であると考え、利用者一人ひとりの思いを引き出し、それを実現させる知識を身につけるため職員が外部研修に参加したり、全職員で勉強会を開催し、質の高いケアサービスの提供を目指して職員が一丸となって取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳があり、その人らしい暮らしを過ごして頂くために、日々の業務を行う際、意識できるようにしている。	基本理念とケア理念を事業所内の数ヶ所に掲示するとともに、職員会議で掘り下げた話し合いをし、振り返る機会を作っている。また、新人研修でも必ず伝えており、全職員が共有できるようにして、具体的なケアに繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	八雲あんどん祭り山車行列の見学や、例大祭の露天見学、歩行者天国の見学、社協主催の年にふれあい広場出席、八雲町全体の敬老会参加、八雲町ボランティア主催の民謡見学、町内会主催の行事等に参加するとともに、法人主催の夏祭りなど地域の方に参加する等交流を積極的にしています。	地域や町全体の行事には積極的に参加し、事業所の行事にも地域住民の参加や手伝いにより、双方向的な交流を積極的にしている。日常的に近所の住民から野菜などの差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	八雲認知症家族の会リフレッシュクラブの賛助会員として、活動の一翼を担うとともに、語らい訪問等の受け入れをしながら地域の方の理解を得られるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族様、地域の方々の助言を積極的に取り入れてサービス向上に活かしています。(防災等の取り組みなど)	前年度は5回開催して、行政、利用者・家族、地域、消防署などが出席して、事業所から利用者の生活状況や取り組みなどを報告し、意見や助言を得たり、防災などに関する話し合いも行われ活発な会議となっている。表出された意見はサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援係、介護保険係、高齢者福祉係、社会係、八雲総合病院医療相談係等情報の共有化等も含め緊密な関係を築けるよう努力しています。特に地域ケア会議等にも出席する等など連携を図っています。	町の担当者や八雲総合病院の相談担当者・ケースワーカーとは連携を深めて情報の共有を図り、定期的に地域ケア会議に出席し、協力体制構築に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の外部研修へ参加し、理解と学習に力点をおいて取り組むとともに、職員全体で身体拘束ゼロのケアに努めています。	全職員で毎月の勉強会を積み重ね、独自のマニュアルを作成している。事業所内に保管し、いつでも閲覧可能な状態にしている。また、全職員にも配布し徹底理解を図っている。玄関は夜間のみ施錠し、安全面に配慮しつつ自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の施設内研修や外部研修に出席するとともに、利用者様の接遇向上に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度などの研修会に参加し、個々のケースによって関係者と連携しながら、活用できるよう体制を築いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、御家族様が不安や疑問がないよう十分説明し理解を頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、日々の様子や変化などを説明し、要望など運営に反映させる体制を整えています。また、意見箱の設置やホームページに苦情解決窓口担当者と苦情解決責任者や苦情解決第三者委員の公表しております。	利用者や家族にアンケートを実施したり、面会時や手紙でどんな些細なことも話してもらえるよう雰囲気づくりに配慮している。表出した意見や要望は管理者と全職員で話し合い運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長による個別面談の実施や、管理者が出席する毎月の職員会議で職員の意見を反映して頂いて運営しております。	全職員を対象とした理事長との個人面談を実施したり、毎日の申し送りは2ユニット合同で行っている。日常的に気付いた事は主任や施設長に相談したり、職員同士話し合いをする機会を設けている。介護記録書式の改善や転倒防止策作りなどに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員1人1人が向上心を持って働けるように努めています。制度上の限界も感じております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を招いての研修会を設けるなど、日々の実践そのものがトレーニング場であることを自覚し、向上心を持つことが大切だと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会に参加したり、研修の受け入れも行ってます。また、地域ケア会議の出席や感染症ネットワークの構成員になる等取り組みも行っていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時から困っている事・不安なことを聞き、いかに安心できる環境を提供出来るか個別の対応に努めています。ケースによっては、ひもときシートやセンター方法式C-1-2心身の情報(私と姿の気持ちシート)を活用し関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から困っている事・不安なことを聞き、いかに安心できる環境を提供出来るか個別の対応に努めています。ケースによっては、ひもときシートやセンター方法式C-1-2心身の情報(私と姿の気持ちシート)を活用し関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始時に、本人やご家族様より頂いた情報をもとにアセスメントをし、ケアプランを作成し適切かつ必要とするサービスを提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で共に生活し個別ケアしながら、ともに想いを共有できるような関係を築けるよう心がけています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にお電話やお手紙によって利用者の近況をご家族に報告をするとともに、面会の機会創出などの支援に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係を継続して頂くために、面会の機会創出の支援や電話や手紙・年賀状の代筆などを行っている。馴染みのお寿司屋さんやお蕎麦屋さんに出張して頂いて食事のサービス提供や地域のお店にお買い物に行くなどの支援をしています。	馴染みの理・美容院や歯科医院を利用し、行きつけの店で買い物をしている。家族と一緒に墓参りをした後に外泊をし、家族で過ごす時間が持てるよう支援している。初詣の習慣がある利用者には継続出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いに配慮したり、補える関係となるようコミュニケーションを大切にしながら共同生活して頂くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、必要に応じ本人・家族への相談支援を継続したり、出来得るフォローに最大限度努力しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者に寄り添う援助をする事で、表情・行動の変化、個々の思いを把握し、職員間で認識を共有しながら、パーソン・センタードケアに努力をしています。	日常の筆談も含めたさり気ない会話の中から把握に努め、意思疎通が困難な利用者には生活歴や家族・知人から情報を得たり、表情や行動から汲み取って本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人・ご家族様よりの情報を活用し、以前と変わらぬ生活を送れるよう努めている。具体的には、一人暮らしの利用者宅を、利用者といっしょに訪問して、生活環境を確認したり、馴染みの私物を持ってきて頂いて暮らす環境に配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、一人ひとりの状態観察をし、その時の変化に合わせ、日々の介護に反映できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様本人がより良い生活ができるように、本人・ご家族様とよく話し合い、意見・要望を取り入れ職員全体サービス担当会議を開催し、ケアプランを作成している。	ひもときシートを利用してニーズを把握し、担当職員が丁寧にモニタリングし、カンファレンスを行いサービス担当者会議を経て、計画担当が本人や家族の意見・要望を反映した介護計画を作成している。介護計画と実施の連動性も介護日誌で確認することができる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の記録や申し送り等で情報を共有し、日常の介護や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診援助や入院時の日用品費等の補充・洗濯・事務手続き等の代行、家族様の宿泊対応等、その時々状況や事情に対応すべく、可能な限り支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	さずな画廊を開設し、四季毎に交換して頂いて油絵・絵手紙を鑑賞して頂いている。定期的に元音楽の先生に来訪して頂き、音楽療法の取り組みや、地元消防署に適時運営委員会に出席して頂き、火災・自然災害対応について御指導を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・御家族様の希望を受け、かかりつけ医の受診を実施している。また、定期的に訪問診療を受け、医療機関との連携を強化している。	月2回かかりつけ医による往診と、必要に応じて歯科医師の往診もある。2名の看護師が24時間オンコール体制をとっている。八雲総合病院で専門科受診が可能で、受診時は看護師が同行して結果を家族に報告し、本人や家族が希望する適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤2名の看護体制を確保し、日々の状態を報告、相談等し、適切で重厚な看護が出来るよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際には、介護連絡表に詳細を記入し提出するとともに、必ず職員が担当看護師に申し送りを行っている。病院の医療相談係と情報交換や相談を密接に取り合い退院等の支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、事業所としての終末期の方針を説明し、主治医、御家族と常に情報交換している。また、本年7月1日に看取り指針を制定しています。	看取り指針を作成し、利用開始時に本人と家族に事業所ができることを十分説明して方針を共有している。今までに看取りの経験はないがスタッフ会議の中で話し合い、勉強を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルやを活用し、実践力を身につけるように努め、研修や実習も実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回近隣のショートステイ、共生型支援ハウスと合同で消防署指導のもと実施している。町内パトロール隊の方に参加して頂き、災害時の避難訓練も行っている。	年2回併設のショートステイや共生型支援ハウスと合同で消防署の指導のもと、地域住民も参加して避難訓練を実施している。災害時に備えカンパンなどの保存食やストーブを用意するとともに、停電時に備えて地域の方から発電機の借り入れが可能な協力体制も整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に接し方を振り返り、利用者様の人格の尊重・誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に配慮している。接遇委員会を設置や研修も行っている。	日頃から人格を尊重した接遇を心掛け、接遇委員会が中心となって勉強会を開催している。特に排泄時の声掛けや対応には、誇りやプライバシーを損ねないように細心の注意をはらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思や希望が表現できる声掛けを行い、表情・行動等にも配慮し、自己決定できるよう支援している。食事等もセレクト食の機会を創出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々の生活のリズムやペースに合わせて過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常的に個々に合った身だしなみや、おしゃれが出来るよう支援している。毎日の衣服なども自己決定できるよう心がけている。定期的に訪問理容も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいと話されたものをメニューに取り入れ、職員と一緒に調理や後片づけを行っている。また、個々の希望により、飲食店にも付き添って外出している。	利用者の希望を取り入れた献立を作成し、野菜の皮むきや茶碗ふきなど個々の力を活かし、食事に関わる一連の作業を職員と一緒にやっている。夏には手作りかき氷をそれぞれ好みの味に作って食べたり、外食をしたりと、食を楽しむ工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取状況や身体状況にあわせ、食事量や水分量・栄養補給を行っている。また、食事・水分量のチェックを行い把握している。アルコールの習慣がある方には、健康状態に配慮しながら飲酒して頂いています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後の口腔ケアは、職員が必ず声を掛けて見守りをするとともに、出来ない利用者については介助にて口腔ケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行う事でトイレでの排泄が出来るよう支援している。	トイレでの排泄を大切に考えており、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して、様子を見てタイミングよく声掛けや誘導をすることで衛生用品の使用を極力少なくし、自立排泄に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材には、必ず野菜・果物が入り便秘予防に心掛け、運動に関しては日中の活動を促している。申し送りや記録・排便表を活用し、全職員が排便の状況を把握している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴としているが、要望や状況により入浴や足浴など、1人1人に合った支援をしている。	週2回の入浴を目標にして、曜日や時間などは本人の体調や気分・希望に沿って臨機応変に対応し、拒否の強い利用者には声掛けのタイミングに配慮している。また、外出の機会を利用して個別に温泉入浴を楽しんでいる。入浴後晩酌を楽しみにしている利用者もいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの利用者様に合わせ安眠や休息が取れるよう配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師の指導をうけ服薬管理し、基本的な知識を十分に理解するよう努めている。(服薬情報一覧を作成している)症状の変化について観察し、医療連携に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が日々の生活の中で生きがいや楽しみを持てるよう、生活歴を考慮し、出来ることを職員と一緒にやり支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、職員が付き添って施設周辺を散歩している。町内の花見やお祭りなどに参加し、外出支援を積極的に行っている。	天気や気候の良い時には近所を散歩し、敷地内にある芝生の上で昼寝やパークゴルフを楽しんでいる。近くの牧場や漁港・公園へドライブに出かけて、皆でアイスクリームを食べるなど気分転換やストレス発散の機会とし、積極的に外出している。年間行事として、お花見やお祭りなどに参加することで五感刺激の機会としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と協議の上、自己管理の金銭に関しては、五千円程度までとしている。その中で外出の際の買い物、施設内での自動販売機の使用や電話など、お金を所持したり使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも手紙が出せるように準備し、投函まで支援している。電話は自分でかけられない人に関しては、職員が希望の相手に対しダイヤルして、受話器を渡して支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、バリアフリーで利用しやすい状況になっている。施設内の温度や湿度などをチェックし空気の流れ替えをしたり、季節感のある飾り付けや行事の写真などを貼り工夫している。	居間の大きな窓から入る陽射しをレースのカーテンを利用して調節し、温度や湿度は管理され、必要に応じて換気を行っている。気になる臭いや光・音もなく清潔が保たれている。居間の窓際には利用者が思い思いにくつろげるように畳と絨毯を敷いた小さなコーナーが設けられている。居間の壁には外出時や行事の写真、生活感のある手作り品が飾られ家庭的な温かい雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に応接セットやカーペットを配置し、利用者同士で自由に過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を自由に利用してもらい、家庭的な環境で過ごせるよう配慮している。	介護用ベッドと大型の筆筒は備え付けになっている。使い慣れた家具や寝具、仏壇を持ち込み、必要な物は事業所が貸し出している。本人の身体機能や生活習慣に合わせて床に絨毯を敷くなど、個々に合わせた部屋づくりをして居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来ること」や「わかること」を活かす支援として、個々に応じて、テーブル拭き・食器拭き・洗濯物のばし・洗濯物たたみ等を声掛けし見守りながら一緒に、自立した生活が送れるよう工夫している。		